

平成 27 年 度 事 業 報 告

里 親 開 拓 運 動 (愛 の 手 運 動)

(1) “あなたの愛の手を” の申込者状況

申込者数 < 第 1 表 >

年度		平 21	平 22	平 23	平 24	平 25	平 26	平 27	協会発足 以来合計
神 戸	市 内	5 6	1 0 0	1 0 9	7 1	8 4	1 0 0	6 8	7 0 3 0
	県 下	1 3 8	1 5 4	1 5 8	1 6 7	1 5 8	1 6 8	1 5 8	1 0 6 8 2
	その他	1 3	6	7	1 1	9	1 0	8	1 1 5 1
	計	2 0 7	2 6 0	2 7 4	2 4 9	2 5 1	2 7 8	2 3 4	1 8 8 6 3
大 阪	市 内	3 9	4 3	5 2	4 6	4 4	3 3	2 7	—
	府 下	4 8	4 9	7 0	4 8	7 0	7 8	4 8	—
		(2)	(4)	(5)	(8)	(5)	(1 2)	(6)	—
	その他	1 3 5	1 6 4	1 9 5	2 5 0	1 3 8	1 5 4	2 0 4	—
計	2 2 2	2 5 6	3 1 7	3 4 4	2 5 2	2 6 5	2 7 9	2 4 1 6 9	
合 計	4 2 9	5 1 6	5 9 1	5 9 4	5 0 3	5 4 3	5 1 3	4 3 0 3 2	

神戸（神戸新聞・ラジオ関西）、大阪（毎日新聞大阪版・奈良版・京都版・滋賀版・和歌山版・島根版・鳥取版）における毎週 1 回の呼びかけに対する申込者数の状況は < 第 1 表 > の通りである。府下の（ ）書きは、堺市在住者。

(2) 家庭委託状況

平成 27 年度中に協会が取り扱った要養護児童の状況 < 第 2 表 >

		取 扱 児童数	取 扱 い 状 況						
			協 会 委 託	児相よ り委託	推 薦 中 面会中	実 引 親 取	里親探 し中止	適 任 者 な し	人 選 中
神 戸	愛 の 手 掲載児童数	3 5	9	4	4	1	1	0	1 6
	そ の 他 取扱児童数	8	8	0	0	0	0	0	0
	計	4 3	1 7	4	4	1	1	0	1 6
大 阪	愛 の 手 掲載児童数	1 0 0	1 5	8	6	0	7	2 6	3 8
	そ の 他 取扱児童数	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1 0 0	1 5	8	6	0	7	2 6	3 8

平成 27 年度中に委託した児童の年齢と委託予定期間 < 第 3 表 >

年 令		0	1	2	3	4	5	6	10	13	計
期 間								～	～	～	
神 戸	養子縁組	1	3	1							5
	期間不定						1				1
	短期									1	1
	週末		2					3	4	1	10
小 計		1	5	1	0	0	1	3	4	2	17
大 阪	養子縁組	2	4	2	0	2	3	0	0	0	13
	期間不定										0
	週末里親							2			2
	小 計	2	4	2	0	2	3	2	0	0	15
合 計		3	9	3	0	2	4	5	4	2	32

(3) 協会発足以来、里親探しを行った児童の状況

昭和 37 年から協会が取り扱った児童の状況 < 第 4 表 >

現 在 の 状 況		神戸事務所	大阪事務所	合 計	
		S37～H28.3 月末	S39～H28.3 月末		
里 親 へ 委 託 し た 児 童	現在里親委託中	神戸市内	13	—	13
		兵庫県下	33	—	33
		大阪市内	—	4	4
		大阪府下	—	5	5
		堺市	—	0	0
		その他	4	9	13
	養子縁組が完了したもの		691	1084	1775
	就職および大学進学		124	30	154
	実親家庭へ復帰したもの		134	73	207
	事情があって里親から施設へ		93	93	186
	死亡したもの		3	0	3
	小 計		1095	1298	2393
	児童相談所から委託したもの		44	318	362
	週末里親へ委託中のもの		40	4	44
週末里親への委託完了したもの		106	60	166	
小 計		146	64	210	
未 委 託 児 童	現在児童相談所へ推薦中のもの	4	6	10	
	人 選 中	16	38	54	
	実親等の引き取りのため中止	270	317	587	
	里親委託方針の変更（施設）	409	690	1099	
	里親探し中に死亡	4	1	5	
	小 計	703	1052	1755	
合 計		1988	2748	4736	

協会が昭和 37 年以来（大阪は昭和 39 年以来）里親探しを行った児童の現状の内訳は < 第 4 表 > の通りである。

平成27年度 事業報告

－ 神戸事務所 －

I 里親家庭及び養育希望者のための研修とレクリエーション

養育希望者のための研修

里親や養親を希望する人たちのために今年度は次のような研修を行った。

■里親認定のための研修

(1) 養育里親基礎研修

兵庫県と神戸市から委託を受け、基礎研修4回、認定前研修3回を実施した。基礎研修は、DVDやパワーポイントを活用し、里親制度の基本的な意味と役割等について解説し、グループ討議などを行った。なお、養子縁組を希望する人たちにも社会的養護の重要性から、研修の受講をすすめている。27年度の受講者は延230人。

		日 時	会 場	参加者数 (人)	うち 兵庫県	神戸市
第1回	講義	平成27年 4月25日(土)	あすてっぷKOB E セミナー室1	30	20	10
	実習	5月13日(水)	神戸少年の町・少年の町乳児院	31	20	11
第2回	講義	7月15日(水)	あすてっぷKOB E セミナー室1	20	14	6
	実習	9月1日(火)	神戸真生塾・真生乳児院	25	17	8
第3回	講義	10月17日(土)	たちばな職員研修センター 研修室	33	23	10
	実習	11月9日(月)	神戸少年の町・少年の町乳児院	31	24	7
第4回	講義	平成28年 2月3日(水)	あすてっぷKOB E セミナー室1	32	18	14
	実習	3月9日(水)	神戸真生塾・真生乳児院	28	16	12
(延べ人数) 合 計				230	152	78

(2) 養育里親認定前研修

		日 時	会 場	参加者数 (人)	うち 兵庫県	神戸市
第1回	講義	平成27年 5月30日(土)	たちばな職員研修センター 研修室	52	31	21
		31日(日)		52	30	22
回	実習		県内および神戸市内の乳児院・ 児童養護施設で実施(2日間)	45	26	19
第2回	講義	9月19日(土)	姫路市市民会館 第1教室 第2教室	25	19	6
		20日(日)		24	18	6
回	実習		県内および神戸市内の乳児院・ 児童養護施設で実施(2日間)	28	22	6
第3回	講義	12月5日(土)	たちばな職員研修センター 研修室	35	26	9
		12月6日(日)		36	27	9
回	実習		県下及び神戸市内の乳児院・ 児童養護施設で実施(2日間)	31	25	6
(延べ人数) 合 計				328	224	104

■養子縁組を希望する人のための研修

・養子を育てたい人のための講座

今年度は神戸、姫路、西宮で各1回、計3回開催した。

神戸会場では2日間のプログラムで構成し、1日目はドキュメンタリーフィルムを見てグループ討議し、2日目は養親の子育て体験談を中心に、小グループに分かれて話し合いの時間をもった。講座への受講者募集は新聞やチラシによる広報の他、県下の市町の広報誌に掲載を依頼し、協力していただいている。

今年度は神戸会場で2日間のプログラムを、西宮と姫路会場で1日で行うプログラムを実施した。受講者は98人。

会場	場 所	日 時（各土曜日）	参加人数
神戸	あすてっぷK O B E セミナー室1	平成27年6月13日・20日 13:30～16:00	36人
西宮	西宮市総合福祉センター A1, A2	平成27年11月28日 10:00～16:20	35人
姫路	姫路市国際交流センター 第1、第2会議室	平成28年2月20日 10:00～16:20	27人
計			98人
プログラム			
第1部 ドキュメンタリーフィルムの上映とグループ討議 パワーポイントを使って里親・養親を求める子どもたちの現況の解説			
第2部 養親の子育て体験談 養親子関係を築くために考えておきたいこと（グループ討議） 養子を迎えるための手続き・養子制度の説明他			

里親家庭のための研修と支援

（1）里親のための子育て研修会

「保育ボランティア養成と家族支援講座」と里親研修をジョイントして、次のように2回実施した。2日目は台風により、7月の2回目の開催を9月に延期して実施した。

日 時	平成27年7月10日（金）/9月25日（金） 10:00～12:00
場 所	1日目 たちばな職員研修センター 研修室 2日目 あすてっぷK O B E セミナー室1
テ ー マ	「楽しさから始めるこどもの発達支援」 1日目 苦手なことを感覚統合で理解する 2日目 こどもの感覚統合をはぐくむ
講 師	太田 篤志氏（姫路獨協大学客員教授）
参加人数	1日目 72人（うち里親16人） 2日目 60人（うち里親10人）

（2）養育里親更新研修

登録里親の5年毎の更新研修が25年度より行われるようになり、27年度は以下のように実施した。5年前の登録里親のうち61人（兵庫県38人、神戸市23人）が受講。実習が必要な兵庫県里親4人には児童養護施設での1日実習を行った。

		日 時	会 場	参加者数 (人)	うち 兵庫県	神戸市
第1回	講義	平成27年 6月28日(日)	たちばな職員研修センター 研修室	26	13	13
第2回	講義	9月5日(土)	宝塚市男女共同参画センター 学習交流室1A	23	13	10
第3回	講義	平成28年 2月20日(土)	姫路市国際交流センター 第1, 第2会議室	12	12	0
合 計				61	38	23
うち 各回	実習		県下及び神戸市内の 児童養護施設で実施	4	4	3 (28年度に 実施予定)

(3) 専門里親研修

今年度は兵庫県の里親2名の養育実習を行った。実習の日程及びプログラムは下記の通り。

日程	実習場所	プログラム
1日間	情緒障害児短期治療施設 県立清水が丘学園	11:00～14:30 ①オリエンテーション ②施設の説明と見学 ③講義「子どもの発達と虐待について」
4日間 (うち1泊の 宿泊を伴う研 修含む)	児童養護施設 立正学園	・児童養護施設の機能 ・被虐待児への日常生活における援助方法 ・被虐待児の家庭復帰にむけた援助 ・子どもの権利を守る取り組み
1日間	① 知的障がい児施設 さわらび学園 ② 知的障がい児施設 おかば学園	10:30～16:30 知的障がい児施設の機能 知的障がい児の理解と支援
1日間	兵庫県 中央こども家庭センター	13:30～16:30 ① 講義「発達障害の理解」 ② 講義「関係機関との連携」 ③ 実習の評価及び意見交換 ④ 一時保護所の見学

(4) 養子縁組の説明と懇談会

これから養子縁組の手続きを考えている養育中の里親を対象に「養子縁組の説明と懇談会」を下記のように行った。また、すでに縁組を行っている養親にも参加していただき、養育経験を語っていただいた。

日 時	平成28年1月21日(木)
場 所	あすてっぶKOB E セミナー室1
参加者	22人

(5) 真実告知研修会

20 回目となる今年度の真実告知研修会は、「告知のはじまり」として、ロールプレイで、6才の子どもが「僕、お母さんのお腹から生まれたの?」という問いかけにどう答えればいいのかを里親さんに演じてもらった。続いて里親から小学校の生命の授業の状況を話してもらった後、小グループに分かれて意見交換を行った。最後に協会から告知に関する基本的な事柄をまとめて説明し、成人した養子から自身の思いを語っていただき、告知のはじまりから成人に至るまでの節々の子どもの心やそれへの対応を学ぶ機会になった。県外からの参加もあり、盛りだくさんの充実した内容だった。

日 時	平成28年3月19日(土)
場 所	たちばな職員研修センター研修室
参加者	35人

(6) 里親支援プログラム

■「里親サロン」の開催

12年目になる里親サロンは1年間に延べ329人(里親214人、子ども115人)の親子が参加。サロンには欠かせない保育ボランティア延べ42人に一時保育のご協力をいただいた。夏休み、クリスマス会などに特に多くの親子の参加があった。県下の各地域から参加があり、特に子どもを受託して間もない里親にとっては先輩里親の経験から学べる良い機会になっている。

里親サロン開設月と参加人数

月	H27										H28			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
参加人数(人)	里親	8	20	11	16	26	12	16	15	54	14	11	11	214
	子ども	4	6	5	14	14	6	7	6	31	6	6	10	115
	保育ボランティア	3	3	4	4	4	4	4	4		4	4	4	42
	計	15	29	20	34	44	22	27	25	85	24	21	25	371

■里親家庭で育つ子どものための学びのサポート

里親家庭の小学生を対象に、学びのサポートを昨年からはじめた。小学校教員経験のある方に里親に親として子どもの学習にどうかかわればいいのか等、希望に応じて相談を受けた。

	対象	夏休み
(1)里親からの個別相談	里親	2家庭
(2)「子どものための学ぼうや教室」	子ども	5人

里親家庭の親睦と交流

(1) 第47回ぼんぼりキャンプ

今年度は福井県の「福井県奥越高原青少年自然の家」で3日間キャンプを行った。今年は3日間とも晴天に恵まれ、自然の中でゲームを楽しみ、また福井県立恐竜博物館では太古の化石や生命の歴史を学び、関心を持つ子どもたちも多く、思い出に残るキャンプとなった。今回、井植記念会より50万円の助成をいただき、新しいキャンプ用のTシャツを作成して参加者にプレゼントした。

日 時	平成27年8月14日(金)～16日(日) 2泊3日
場 所	福井県奥越高原青少年自然の家(福井県)
参加人数	76人

(2) 新春初笑い大会

今回は従来の神戸市婦人会館の会場で実施することができた。午前中は「ぼんぼこ大カルタ大会」を企画。参加者が読み札と取り札を手作りした後、それを使って競技。バイキングの昼食の後、午後は4つのグループに分かれてのゲーム大会。今回は新しいゲームも多く新鮮な楽しみ方ができた様子だった。

日 時	平成28年1月10日(日) 10:30～15:00
場 所	神戸市婦人会館 5階「さくら」
参加人数	87人

グループぼんぼこの活動

中・高校生の里子、養子及びボランティアを中心とした「グループぼんぼこ」の活動は以下の通り。

平成27年	7/25	キャンプの打合せと準備会
	8/14 ～16	「福井県奥越高原青少年自然の家」で開催された「第47回ぼんぼこキャンプ」への参加協力
	8/29	キャンプの振り返り会
	12/7	「新春初笑い大会」スタッフ打合せ
平成28年	1/6	「新春初笑い大会」の準備会
	1/10	「新春初笑い大会」への参加と運営協力(会場運営、司会進行他)
	3/27	「チャリティ映画会」への参加(会場で入場者の整理やバザー品の販売等)

II 季節里親・週末里親の促進事業

(1) ボランティア里親の募集と説明会

季節里親・週末里親を募るための説明会を11月14日に開催。プログラムは養護児童の現状についてパワーポイントで説明、ボランティア里親の意味や役割について話した後、週末里親さんから自身の活動について話していただき、参加者との意見交換を行った。説明会の後、希望者には受付面接を行った。

日 時	平成27年11月14日(土) 13:30～16:00
場 所	たちばな職員研修センター 研修室
参加人数	36人

(2) 季節・週末里親の活動報告と交流会

今回は第1部でドキュメンタリーフィルム「週末家族～ずっとそばにいて」を見て話し合い。昼食をはさんで午後は4つのグループに分かれて日頃の交流の楽しみや悩み、課題について話し合った。

日 時	平成28年3月13日（日）10:00～14:30
場 所	神戸市婦人会館 4階 もくれん
内 容	第1部 ドキュメンタリーフィルム 「週末家族～ずっとそばにいて」を見て、話し合い 第2部 昼食後はグループに分かれて参加者相互で意見交換
参加人数	18人

委託・交流中の児童の状況（神戸事務所）

季節里親

年齢別 人数	幼児 (2～6)	小学生 低学年 (6～9)	小学生 高学年 (9～12)	中学生 (12～15)	高校生 (15～)	合計
夏 季	6	8	1 1	8	1 1	4 4
冬 季	6	9	1 1	9	1 0	4 5

夏季には44名の児童が38家庭に、冬季には45名の児童が39家庭に引き取られている。子どもの年齢内訳は上記の通りである。

1回の委託期間は、概ね5日～10日である。また、春休みや連休、旅行など里親家庭の家族行事に呼ばれている子どももいる。

週末里親

〈平成28年3月末〉

年齢別 人 数	幼児 (2～6)	小学生 低学年 (6～9)	小学生 高学年 (9～12)	中学生 (12～15)	高校生 (15～)	合計
4	9	1 2	1 1	1 0	4 6	

今年度末で週末里親に委託が継続されている児童は46人。年齢の内訳は上記の通り。中高生の場合は児童を中心に里親、施設等関係者の連携が大切である。

施設退所や養育里親への委託等で週末里親との交流が終了した児童は4名。

Ⅲ 子育て支援活動

(1) 子育てを楽しむ「親子講座」

「親子陶芸教室」

日 時	平成27年7月30日（木）午前10時～12時 8月27日（木） //
場 所	神戸市生涯学習支援センター(コミスタこうべ)3階
講 師	陶 芸 家 西 脇 正 明 氏 ゲーム指導 小林 晋一 氏
参加人数	15家庭 36人（うち、里親家庭の親子6組14人）

(2) 「子育てサポートグループぼちぼち」の活動

保育ボランティアの登録者と、親支援プログラムの修了者や講座などへの参加者で、一時保育の相互援助活動を組織化し、一時保育つきのプログラムを提供している。

(イ) 一時保育活動

里親サロン、里親家庭のための研修、養育里親研修、保育ボランティア養成と家族支援講座、母親グループの座談会、子育て支援講座などで一時保育を実施し、協会がボランティアコーディネートを行っている。

(ロ) 「保育ボランティア養成と家族支援講座」の開催

保育ボランティアを募集・養成する目的と、里親家庭、地域の子育て家庭にも役に立つ知識を提供する目的とをかねて、協会と「ぼちぼち」の共催で今年度は7月と9月に2回行った。

(ハ) 子育て座談会

毎月1回程度、育児中の母親が集まって近況や悩みなどを話し合ったり、情報交換をしたり、テーマについて学ぶ座談会を開催。

(ニ) 勉強会の開催

今年度は、お母さんたちにとってニーズの高いテーマである「片づけ」と、「怒り」についての講座を開催した。夏休みには、5歳以上の親子を対象にこどもむけのキッズ・アンガーマネジメント講座、その後、お母さん対象のアンガーマネジメント講座を開催した。

月日	会場	参加者	タイトル/講師
H27 4/7	神戸市総合福祉センター 第2研修室	12人	「心の整理をしてみよう（こども&おとな）」 講師：江本くみ子 氏
H27 5/26	神戸市総合福祉センター 第4研修室	10人	「片づけセミナー ①」 講師：江本くみ子 氏
6/23	講師宅	7人	「片づけセミナー ②」 講師：江元くみ子
8/18	神戸市総合福祉センター 第4研修室	25人	「キッズ・アンガーマネジメント講座」 講師：梶原由美 氏 (こころサポート・あおいくま代表)
11/24	あすてっふKOBEG グループ学習室 B	9人	「お母さんのためのアンガーマネジメント講座 ①」 (4回予定) 講師：梶原由美 氏
H28 1/14	あすてっふKOBEG セミナー室4	14人	「お母さんのためのアンガーマネジメント講座 ②」 講師：梶原由美 氏

(3) 子育て相談

配布している子育てサポートカードやHPを見て、子育てについての相談の電話がある。電話で話をきくと落ち着く人が多い。アドバイスをしたり、相談窓口を紹介したりしている。

また、発達障害などで学校でのトラブルがあったり、不登校状態にあるこどもと親に継続的に相談支援をしている。

IV 里親支援に関わる WORKER のための研修

今年度は「ソーシャルワークの実際」をテーマに第3回目の里親支援に関わる WORKER のための研修を開催した。関西・西日本の里親支援機関や里親支援専門相談員、児童相談所の里親担当者、施設職員等に呼びかけ、下記のようなプログラムを実施した。

日 時	平成27年11月17日（火）10:30～16:30
場 所	あすてっぷK O B E セミナー室1, 2
テーマ	「里親ソーシャルワークの実際」
プログラム	第1部 講演 「里親ソーシャルワークの実際」 講師 宮島 清氏（日本社会事業大学専門職大学院 准教授） 第2部 意見交換 第1分科会「里親養育がうまくいくためのマッチングのポイントは？」 第2分科会「里親支援機関と児童相談所の役割分担」 第3分科会「効果的な連携と情報の共有～望ましいチームワークとは？」 終了後、参加者の交流会
参加者	114人

V 里親・養子縁組相談支援事業

兵庫県より補助金を受けて、予期しない妊娠でとまどっている人たちを支援するための事業を行った。研修会等で「子育てサポートカード」を配布し、里親・養子縁組についての取り組みの広報を行なった。

相談件数は多くはないが、受理した養護相談についてケースワーカーが面接、家庭訪問などの支援を行った。前年度に委託したケースについて養親と実親への継続したサポートを行っている。

VI 広報活動

（1）里親制度をすすめるためのドキュメンタリーの上映とトーク

毎年一般市民を対象に神戸市里親会と共催しているが、第1部で「クイズでわかる里親制度」として、参加者に色紙を配布して、質問の答えていただくようにした。そのあとドキュメンタリー番組「家族づくり～子どもたちと里親の1年」（MBS制作）を上映。第2部では里親さんたちからそれぞれの立場で経験をお話いただき、意見交換を行った。

日 時	平成27年11月23日（月・祝）13:30～16:30
場 所	たちばな職員研修センター 研修室
参加人数	120人
プログラム	第1部 「クイズでわかる里親制度」 ドキュメンタリー番組「家族づくり～子どもたちと里親の1年」 （MBS制作）上映 第2部 里親さんリレートーク 養子里親・養育里親・週末里親から養育経験のお話し 意見交換

(2) 子どもの日キャンペーン

5月5日子どもの日の神戸新聞朝刊1ページ県下版で38回目のキャンペーンを実施。今回は「開こう、里親への扉」というキャチフレーズに、「本が出会いの入り口でした」というコピーと本を介して、家族が増えていく様子をイラストで表現した。この企画も高く評価され、神戸新聞広告賞(佳作)を受賞した。協賛企業・団体29社

(3) 愛の手運動の写真とパネル展、オレンジリボンキャンペーンの開催

平成27年12月10日～13日の4日間「ギャラリーメトロ」で愛の手運動の写真とパネル展、チャリティバザー、児童虐待防止のオレンジリボンキャンペーン等の啓発を行った。

(4) 里親出前講座

神戸市里親会と共に実施している「里親出前講座」を協会がコーディネートして、下記の大学等で行った。

京都華頂大学、神戸学院大学、宍粟市民生委員児童委員協議会、関西学院大学、甲南大学、加東市民生児童委員連絡会、姫路市民生委員児童委員協議会、明石市高齢者大学(朝霧コミセン、衣川コミセン)、公開出前講座(長田区)

受講者 延べ741人

(5) 機関誌「育てる」No.52を大阪事務所と3550部を7月に発行。(共同募金配分金事業)

(6) 機関紙「はーもにい」を7月、10月、12月、28年3月にそれぞれ2900部発行。

(7) 共同募金配分金を受けて「季節里親・週末里親ガイドブック」を600部作成。

(8) ホームページの刷新 スマートフォンやタブレット端末でも見ることができるように変更し、レイアウトなどもより見やすくする予定にしている。

(9) 他府県の里親研修や里親希望者の研修に講師として出講し、広報や交流につとめた。

(10) 「里親制度をすすめるために～愛の手運動のしおり」を2000部発行。

Ⅶ 職員のための研修

次のような研修会に参加し、職員のための研修を行った。

① 第16回日本子ども家庭福祉学会大会 於：関西学院大学(6/6～7)

② 近畿児童養護施設研究協議会兵庫大会(6/9～10)

③ 兵庫県立こども発達支援センター基礎研修(6/12)

④ 第44回全国児童養護問題研究会全国大会(6/27～28)

⑤ 近畿地区里親研修会(7/11)

⑥ 清水ヶ丘学園児童心理臨床セミナー(7/29)

⑦ 「子どものシェルターを考える」(9/26)

⑧ 子育て市民講座「子どものそだちにくさ」(11/27)

⑨ 「女性と子どもの貧困の連鎖を断ち切るために」シンポジウム(12/19)

⑩ 発達障害理解のための基礎と実践講座(28年1/23)

⑪ 社会的養護における「育ち」「育て」を考える研究発表会 於：武蔵野学院(2/27)

⑫ 養子と里親を考える会(2/28)

Ⅷ 生活資金・奨学資金貸付事業

元里子や養子から生活費、運転免許の取得、引っ越し費用、また大学へ進学するための入学金や入寮費の借用依頼があり、今年度は1,190,000円の貸付を行った。

IX 活動資金を募るための活動

今年も活動資金を募るために他団体主催のバザーに出店したが、収益はあまり増えていない。また、個人や団体からも多くの寄付やバザー品が寄せられ、活動を支えていただいた。

5/5	神戸新聞紙上で第38回目の愛の手広告キャンペーンを実施。協賛団体29社	
5/16	神戸まつりの湊川公園「はっぴいひろば」バザー	72,670 円
10/4	健康・福祉フェアバザー	55,485 円
11/12	神戸市手をつなぐ育成会「合同福祉バザー」	53,520 円
12/10 ～13	「ギャラリーメトロ」チャリティバザー	401,820 円
28年3/6	神戸市重度心身障害児（者）父母の会バザー	41,290 円
3/27	チャリティ映画会バザー	19,060 円
27年4/1～ 28年3/31	福祉センターミニバザー	180,064 円

- ・兵庫県芸術家協会からはチャリティコンサートの収益を、有馬向陽閣、銀水荘別館兆楽からはチャリティボックスの寄付を毎年協会に寄せていただいている。
- ・ダイエー三宮店「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」に登録し、レシート総額の1% 2770円を寄贈いただき、里親サロン用の茶菓子を購入した。

X その他

- (1) 神戸市を通してオリックスの野球観戦のチケット、劇団自由人会から「カーリーの青春」での観劇（ピッコロシアター）、そして「さんふらわあ号」の大阪湾・明石海峡クルーズに里親家庭の親子40名を招待していただき、抽選で神戸⇄大分の乗船券が2家庭に当たった。
- (2) 共同募金会へ「季節・週末里親ガイドブック」の作成を申請し、プレゼンテーションを行った結果、配分金を受領し、28年3月に600部出版。
- (3) (公財)井植記念会より50万円の助成を受け、新しいぼんぼこTシャツを560枚作成し、キャンプで配布した。残りは今後のキャンプで参加者に配布する。
- (4) 日本財団へ啓発事業の助成金申請のため、博報堂とキャンペーン内容について協議（JR西日本車内のDVD映像広告他）し、今年度に申請。一部の事業が認められたので、28年度に実施予定。
- (5) 今夏の事務所移転（元の場所へ戻る）に伴い、事務所を整備するために半世紀使用していた机、椅子、書庫、面接室のソファ等を取り替え、新しい備品購入をやまぶき財団に申請中。

平成27年度 家庭養護促進協会 事業報告
— 大阪事務所 —

I. 里親及び申込者のための研修と里親子のための親睦活動

【養子を育てたい夫婦のための連続講座】

申込者の高齢化が進み、初回来所から委託までの期間が短くならざるを得ないので、委託前にはできるだけ講座を受講するよう勧めている。大阪府下、近畿圏、協会経由で委託をおこなった近畿圏外の児童相談所にも案内を送付しており、児童福祉司や里親支援専門相談員など、オブザーバー参加が非常に多かった。

講座は、連続3回で土曜日13時30分から17時（最終回は17時30分）。のべ73組の受講者のうち、養親候補者として推薦したのは12組、調査検討中7組である。児童相談所から勧められて講座を受講し、その後に地元児相や民間団体からの紹介で子どもを受託している夫婦も増えている。

		第78回	第79回	第80回
日 時		6/6, 13, 20	10/3, 10, 17	2/6, 13, 20
場 所		大阪市立社会福祉センター会議室		
内 容	1 グループセッション	参加者と職員とのワーク		
	2 「養子里親の体験談」から	Y夫妻	Y夫妻	N夫妻
	3 「養子を育てること」とは・・・	岩崎 美枝子		
参 加 者		23組	24組	26組
オブザーバー参加者		9名	4名	5名

【成長した子どもからのメッセージ】

3歳7ヵ月で長野県の養親宅に引き取られたK君（19歳・男性）を話者として迎えた。昨年、大阪にある調理師専門学校へ進学し、この春からホテルで働くこととなったK君に、養子として育ててきた思いを率直に語ってもらった。

日時 3月19日（土） 13:30～16:00

場所 大阪市立社会福祉センター

参加者 28名（保育7名）

【里親子の親睦を深めるための活動】

(1)ふれあいキャンプ 8月17～19日（於：紀泉わいわい村（大阪府泉南市））

はじめて利用する施設であった。囲炉裏やかまど、五右衛門風呂のあるかやぶき屋根の宿舎で、3食自炊だったが、子どもたちは協力しあい、がんばっていた。特に「プログラム」が用意されている施設ではないが、退屈することはなく、川遊びやクラフト、ピザづくりなど、楽しんで過ごすことができた。例年に比べ、移動の時間が大幅に短縮できたので、現地でゆったりと過ごすことができた。成長した養子たちが、サブリーダーとして、たくさん参加してくれた。

参加者：子ども19名、大阪南YMCAスタッフ6名、サブリーダー5名、協会職員5名、オブザーバー1名

(2)第17回 おやこDEうんどう会（於：大阪市立長居小学校）

11月3日（祝）今年度から第一工芸株式会社の有志の会が協力してくださり、競技も2種目、企画、準備、当日の進行を担当、また、参加者への景品も提供いただいた。当日の運営ボランティアとしても8名の社員さんの参加があった。成長した養子、これから養子を迎えようと考えている夫婦などを含む17名のボランティアさんにもご協力いただいた。

参加者：43家庭（126名）、2施設（5名）、ボランティア25名、来賓3名

(3)JBクラブ

養（里）子を養育中の母親（父親）が、子ども連れで集える「ひろば」の開催を平成18年度より継続。月に1回（10:30～15:00）、主に就園前の幼児を養育中の養（里）親家庭が参加してくれているが、夏休みやクリスマス会は就園児の参加も多い。養母同士のつながりも密になっており、親しく会

話を交わす様子がみられる。公益財団法人大阪コミュニティ財団ふれあい基金のご支援を受けておこなっている。毎月1回、計12回開催し、参加者はのべ104家庭。

(4) J BのO B会

平成23年度より夏休みに小学生以上の養(里)子と保護者を対象に企画。7月29日に実施し、2家庭参加。

(5) エリカの会

小学校入学前や既に小学生になった高年齢の子どもを受託した養親を対象に企画。今年度は実施していない。

【児童相談所里親担当者会議の開催】

大阪府・市の子どもを委託したことのある全国の児童相談所によびかけての里親担当者会議は、今年で27回目となった。例年通り2日間の日程を組み、1日目を研修会、2日目を学習会とした。また、1日目の夜には交流会をおこなった。

日 時	2月4日(木)	研修会	13時30分～17時30分
		交流会	18時～21時
	2月5日(金)	学習会	9時30分～12時
場 所	大阪市立社会福祉センター		
内 容	1日目	1. 「里親支援機関、里親支援専門相談員と児童相談所の連携について」 講師 長田 淳子氏(二葉乳児院(東京都)里親委託推進員)	
		2. 各所報告「里親支援機関や施設配属の里親支援専門相談員の現状、児童相談所との連携の状況や課題について」	
	2日目	「里親委託児童へのライフストーリーワーク」 講師：才村 眞理氏(帝塚山学院大学非常勤講師) 事例提供：新飯田 友弥子氏(大阪府岸和田子ども家庭センター)	
参加児相	青森県中央、福島県浜、埼玉県南、埼玉県川越、さいたま市、東京都児童相談、横浜市中央、横浜市南部、浜松市、愛知県西三河、愛知県豊田加茂、三重県児童相談、三重県中勢、滋賀県中央、京都府家庭支援総合、京都府宇治(京田辺支所)、奈良県中央、奈良県高田、兵庫県中央、兵庫県豊岡、神戸市、岡山県中央、岡山市、広島県西部、広島県北部、徳島県中央、香川県、高知県中央、長崎県、大阪府中央、池田、吹田、東大阪、富田林、岸和田、堺市、大阪市		
	1日目	34児相(39名)	2日目 36児相(38名)

II. 里親制度に関する広報活動

【機関紙・誌の発行】

(1) 月刊紙「あたらしいふれあい」の発行

毎月3,500部を印刷し、約3,000部発送。表紙のカット、発送作業のすべてにボランティアの協力を得て、毎月の発行を継続している。

(2) 年刊誌「育てる」の発行

No. 52を大阪・神戸事務所あわせて3,550部発行。大阪事務所では、会員、関係機関等に1,850部送付している。

【一般向けチラシ・冊子等の作成】

(1) 協会リーフレット(増刷): 3,000部

(2)週末里親広報用チラシ（増刷）：10,000部

(3)週末里親Q&A（改訂）：200部

【愛の手街頭キャンペーン】

里親制度や協会活動のための街頭キャンペーンには、平成6年度から大阪曾根崎ライオンズクラブのご支援を得ている。この活動はクラブの奉仕活動として位置づけ、取り組んでいただいている。

5月14日、10月1日にHEP FIVE前で実施。協会活動の趣意書をつけた玩具（5月は1,500個、10月は1,000個）を大阪曾根崎ライオンズクラブのメンバーとともに通行人に配布し、里親制度及び協会活動の広報をおこなった。玩具の購入（80,533円）および、チラシ付けも大阪曾根崎ライオンズクラブのメンバーがおこなってくださった。5月はHEP FIVEの休館日と重なってしまい、人通りが少なく苦戦したが、10月は晴天の下、時間内にすべて配布することができた。

また、今年度は、大阪府宅地建物取引業協会青鳩会のメンバーのご協力を得て、10月19日に南海なんば駅周辺（高島屋前）で初めての街頭キャンペーンをおこなった。協会活動の趣意書をつけた玩具3000個（85,773円）を配布。夕刻（16:00～18:00）におこなったので、会社帰りのサラリーマン等も多く、大阪駅前でのキャンペーンとは違う層にも配布できた。

【里親いろいろ応援団】

大阪市里親施策推進プロジェクト会議の活動の一環で、平成21年度より市民ボランティア「里親いろいろ応援団」として活動、協会が事務局となって活動をおこなっている。毎月定例会を開催しているが、平成24年度より大阪市管の施設の里親支援専門相談員も定例会に参加している。

毎月11日 イオン鶴見緑地店にてイエローシートキャンペーンに参加。買い物客がレジ精算時に受け取った黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れると、購入金額合計の1%が希望する品物で寄贈されるしくみ。毎回、応援団員が里親制度に関するチラシや風船をセットにしたもの100部あまりを配布している。27年度は44,000円分の寄贈があり、イベント時に作成するキルト用の布やペン、広報に活用するパウチフィルムなどを購入した。

8月10日（月） あべのハルカス近鉄本店「あべの・こども博覧会」
夏休みの集客イベントとして企画され、子ども向け体験・工作イベント等がたくさん用意されていた。団員が所属する「さをり織り」グループとコラボし、里親制度の広報をおこなった。

12月13日（日） あべのハルカス近鉄本店にて縁活プログラム「さとおやっとなあに？」
3年目を迎えたイベントである。新しく入った応援団員の紹介で石多英男氏とつながり、読み聞かせや手遊び、マジックや人形劇をしてもらった。その他、リコーダー演奏、ゴスペルグループによるミニコンサートをおこない、集まってくれた聴衆に対して、里親制度の広報活動を実施。里親子、養親子向けのメッセージを集めたパッチワークキルトの作製にも協力していただいた。

1月30日（日） 大阪市立生野区民センターにて「里親応援フェスタ ～歌とお芝居とおしゃべりで知る里親制度～」
第1部は地元の「アジアハウス子ども劇団」の子どもたちに協力いただき、子どもたちの合唱、里親いろいろ応援団コーラス部による合唱で始まり、第2部では「子どもは宝物～どこの子ども、誰の子ども」と題して金香百合さんにお話いただいた。第3部は関西芸術座によるお芝居「おかえり」。メッセージキルトの展示をや、喫茶コーナーや相談コーナーももうけた。

その他、大阪市里親施策推進プロジェクト会議にもオブザーバー参加している。

【一般向けの広報】

日本財団から、助成金をいただき、一般市民向けの広報活動をおこなうことができた。

(1)スルッとKANSAIおでかけ情報誌『Asobon! (アソボン)』への広告掲載

私鉄、バスなど、スルッとKANSAIエリアの約800駅に置かれており、45万部の発行部数である情報誌の3・4月号(3月1日発行)に、『ぼくにもほしいパパとママ あなたのぬくもりを必要とする子どもがいます』と呼びかける、1ページの全面広告を掲載した。

(2)バスへの広告掲載

京阪バス(枚方営業所25台)の車内戸袋に、協会のリーフレット「ぼくにもほしいパパとママ」をもとにデザインした広告を掲載。(掲載期間は平成28年1月～平成29年1月)。

(3)情報誌等への広告掲載

新聞折り込みタウン誌「ウーマンライフ」の5地域(大阪ウメキタ、大阪帝塚山、八尾、中南和、京都北)計91万4900部に広告を掲載した。

天王寺動物園情報誌「Together」(10万部発行)に広告を掲載した。

【毎日新聞その他による報道記事】

- H27. 5. 17 「里親制度 広く知って 大阪・北区街頭キャンペーン」(毎日)
10. 20 「家庭愛 一人でも多くに」(毎日)
12. 1 「こころ結んで上 産んでないけど『うちの子』」(毎日)
12. 2 「こころ結んで中 家族のぬくもり心に育って」(毎日)
12. 3 「こころ結んで下 ママにしてくれて感謝」(毎日)
12. 3 「愛の手チャリティー 紙上オークション」(毎日)
12. 29 「チャリティーオークション 今年も多くの温かい心 収益194万円を寄託」(毎日)
H28. 1. 8 「今宮戎で愛の手 福あめなど販売」(毎日)
1. 14 「インタビュー 親子になる」(朝日)

【各地・各団体での講演会等で講師として活動の紹介等をした】

- H27. 4. 5 日本財団主催「特別養子縁組へのはじめの一步」(山上)
4. 8 大阪市児童福祉施設連盟里親支援委員会(山上)
4. 25 A I Dを考えるシンポジウム(岩崎)
5. 10 愛知県「こっこの会」研修会(岩崎)
5. 16 奈良県里親会総会里親研修会(岩崎)
5. 24 長野県中央児童相談所里親研修会(岩崎)
7. 8 大阪市淀川区L G B Tの情報交換会(山上・和田)
7. 18 浜松市養育里親更新研修・里親研修会(岩崎)
10. 17 『平成27年度ネットワーク型市民センターとおやっとなあに?』『週末里親について知ろう～週末里親体験談～』(山上)
10. 24-25 第60回全国里親大会鹿児島大会分科会(岩崎)
11. 2 国士舘大学法学部1年生の特別講義(岩崎)。
11. 4 新潟県立大学人間生活学部子ども学科(於:市立社会福祉センター)(中島)
11. 8 不妊カウンセラー研修(岩崎)
11. 21 山口県里親講演会(岩崎)
11. 23 さめじまボンディングクリニック幹旋親の会(岩崎)
11. 24 埼玉県児童福祉研究会の里親支援専門相談員研修(岩崎)
11. 29 gid.jpフォーラム39th2015in関西(於:市立淀川区民センター)(和田)
12. 4 養子と里親を考える会主催里親支援専門相談員対象研修(於:東京)(岩崎)
H28. 1. 22 厚生労働科学研究の研究結果報告会(於:東京)(岩崎)
2. 9 平成27年度沖縄県養育里親更新研修会(岩崎)
2. 15 十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科(於:市立社会福祉センター)(山上)

Ⅲ. 広報と活動資金獲得のための活動

【えべっさん飴売り】

例年通り、下記のようにおこなった。飴の種類や仕入れ数を増やすため、仕入れ先の開拓については模索中である。新たな取り組みとしては、「えべっさん」のイラストと、「福」の字をデザインしたオリジナル飴を作製し、限定700袋を完売した。七福神キャンディとチョコボールは売れ残ってしまったが、「残り福セール」をおこない、機関紙で協力の依頼をしたところ、多数の読者から連絡をいただき、完売することができた。今年も3日間でのべ75名のボランティアさんにご協力いただいた。

飴の袋の中に、愛の手運動の説明を書いたチラシを同封することで、広報活動もおこなっている。

日 時 1月9日(土)～11日(祝)
場 所 今宮えびす神社
収 益 773,568円
チャリティーボックスへの寄付 159,021円

Ⅳ. 研修活動

【職員のための研修】

- H27. 4. 4 日本財団主催4月4日『『養子の日』キャンペーン大人たちから子どもたちへ『家庭』という贈りもの』(岩崎・山上・和田)
- 4.16 講演「子ども達ひとりひとりを大切にする子育てを学ぶ」(岩崎)
- 4.27 大人の学習会「大人は子ども達にどう関わるべきか!?!」(岩崎)
- 5.22 ISSJ主催「ルーツ探し勉強会」(於：東京)(岩崎)
- 6.27 養子と里親を考える会第122回研究会(田邊)
7. 9 1993年ハーグ条約に関する研究会に出席(岩崎)
- 7.10 ISSJ主催シンポジウム『家庭養護の推進に向けて～1993年ハーグ条約から要保護児童のパーマネント保障を考える～』出席(岩崎・和田)
- 7.11 近畿地区里親研修会(堺市)に出席(山上・和田)
- 8.31 大阪市里親施策推進プロジェクト・天理教大阪教区福祉部共催里親委託推進シンポジウム(中島)
- 10.24 子ども虐待防止シンポジウム「新たな支援の創造～大阪の20年これからの20年～」(田邊)
- 10.24-25 第60回全国里親大会鹿児島大会(中島)
- H28. 2. 7 大阪府・大阪市・堺市里親会春季研修会に参加(和田)
- 2.28 養子と里親を考える会第124回定例研究会に出席(山上)

Ⅴ. ホームページ関連

平成11年3月にホームページを開設、平成22年度より新たに作り替え始めていたページを更新し、新ページへと移行が済んだ。開設以来のアクセス数の合計は52万件をこえている。平成24年10月より、大阪事務所のFacebookページを開設し、毎日新聞社ホームページの「愛の手」記事欄へリンクを貼ったり、里親制度に関するイベントの広報、日常の協会活動などについて定期的な発信を続けている。ホームページを通じての今年度の書籍購入は61件82冊。会員入会は1件であった。メール相談については、以下のとおり。開設からの累積受付件数は1,374件となった。メール相談を通じて来所につながった養子縁組希望者が4件、週末里親希望者が3件あった。

【地域別】

大阪府下	11
近畿圏内(大阪府を除く)	5
近畿圏外	9
海外	3
不明	17
合計	45

海外：アメリカ2件、ブラジル

【相談者の年齢】

10代	0
20代	1
30代	12
40代以上	29
不明	42
合計	84

【相談内容】

養子を育てたい	27
里親一般について知りたい	2
縁組・入籍等の手続きが知りたい	0
週末里親について知りたい、やりたい	9
国際養子について知りたい	3
養子になりたい、里親を探してほしい	0
養育相談	0
その他	4
合計	45

*メール相談を通じて来所
 養子縁組希望 4件
 週末里親希望 3件
 その他 0件

VI. 相談事業

【愛の手相談室】

平成11年度から、全国里親会より「里親養育電話相談事業」として「血のつながらない親と子のためのホットライン」を3年間のモデル事業としてスタートしたが、その委託期間が終了してからも、協会の事業としてホットラインを継続している。(相談電話専用番号：06-4304-1085 月～金 11：00～17：00)

これまでホットラインとしての相談件数を別に挙げてきたが、平成25年度より統計上はこれまでの愛の手相談室に組み入れている。本年度の相談の現状については以下のとおり。

「縁組後のアフターケア」は、思春期の子どもを持つ養親からの相談、養子自身からのルーツ探しなどの相談が見られる。

相談内容	総数	電話	来所・訪問	備考
養護相談	9	8	1	
養育相談	18	16	2	
縁組後のアフターケア	30	14	16	思春期、非行、ルーツ探し等
継続相談	2	0	2	
その他	9	9	0	
合計	68	47	21	

【APCC（思春期妊娠危機センター）】

相談件数はかなり減少傾向にある。(相談電話専用番号：06-6761-1115 月～金 10：00～17：00)

【受付件数】 オープン後からの累積受付件数は、6,598件

本年度の相談件数は、以下のとおり。

相談内容	件数	相談内容	件数
妊娠にまつわるもの	12	性病	0
人間関係の悩み	0	近親姦	0
自分の身体の悩み	8	How to Sex	1
マスターベーション	3	養子縁組	0
避妊法について	2	その他	5
同性愛	0	合計	31

VII. 「ふれあいの家」活動

「社会福祉法人そうそうの杜」と賃貸契約を結び、知的障害者の生活支援のためのグループホームとして貸与していたが、平成27年6月末で契約解除となった。

VIII. 大阪市週末里親開拓事業

平成6年7月から、大阪市より委託された事業であり、制度がスタートして21年が過ぎた。今年度は21名の児童の新規登録があり、うち6名が活動を開始した。そのうち1名は年度内に、また1名は平成28年度がはじまるにあたり、関係悪化のため残念ながら終結となった。未委託の15名のうち、2名は平成28年4月から活動がはじまっており、2名は方針変更検討のため中止。11名を引き続き探す。昨年と同様に、里親登録者の受入希望児童の年齢が小学校低学年以下や女兒に偏りがちであるため、

小学生以上の男児は決まりにくく、また、発達の遅れや多動傾向や発達障害がみられる子どもは受け入れ希望者があまりなく、なかなか決まりにくい。昨年度未委託であった21名のうち、4名が活動を開始した。残りの17名のうち、方針変更のため9名が中止、3名が保留、引き続き週末里親を探す児童は5名である。

未委託の登録里親については、里親が希望する年齢や性別、距離等があわず、適当な候補児がなく、待たせてしまっている場合もある。今年度は来所して申込書を提出した22家庭のうち18家庭が登録し、6家庭が年度内に活動を開始した。より広く里親家庭を募ったり、様々な課題のある子どもへの理解を深める等の試みをしたりして、マッチングまでつなげていく必要がある。協会外の里親（制度開始以前から活動中の里親、施設職員、施設が独自に開拓した里親）は委託里親数69名、委託児童数72名となっている。

〈週末里親開拓〉

	27年度	累計
電話等問い合わせ件数	52	1530
申込書提出件数	22	504
登録件数	18	400
調査件数	11	188

〈平成27年度活動状況〉

里親数		委託数	解除数	28年度へ継続
	27年度中に新規委託	9	1	8
	26年度以前からの委託継続	46	4	42
	合計	55	5	50

児童数		登録	中止	委託数	解除数	28年度へ継続	未委託
	27年度中に新規登録	21	0	6	1	5	15
	26年度以前に未委託	21	9	4	0	4	8
	26年度以前からの委託継続			48	4	44	
	合計			58*	5	53*	23

*里親数と一致しないのは1名の里親に2名の児童がマッチングがされている里親が3組いるため

〈委託解除された子どもの理由内訳〉

委託解除理由	27年度	累計	委託解除理由	27年度	累計
実親引き取り	0	18	施設措置解除	0	28
養子里親委託	0	16	施設措置変更	0	5
養育里親委託	1	12	府へケース移管	2	4
里親の都合	0	18	その他	0	2
里親子関係悪化	2	33	合計	5	136

【週末里親研修会・懇談会】

(1) 9月19日（土） 13:30～16:00（対象：里親、施設職員）

昨年同様、前期は「研修会」の形で実施。大阪市こども相談センター 相談支援課長代理宮井研治氏に、「子どもの発達」について、これまでの経験を踏まえてお話いただいた。

参加数 里親19家庭21名、施設職員12カ所13名

(2) 4月23日（土） 13:30～16:00（対象：里親、施設職員）

後期の懇談会は3月末まで謝礼金を配付する目的も兼ね、4月に実施している。今回は例年通りの「懇談会」スタイルで、小学5年生以下の子どもの里親2グループ、小学6年生以上の子どもの里親1グループの、3グループに分かれ、話し合いをおこなった。

今回は、今年度から活動をはじめた里親も複数おり、ベテランの里親がアドバイスする場面があったり、それぞれの経験を共有したりするなど、活発な意見交換がなされた。懇談会終了後、部屋を開

放していたため、週末里親同士、また週末里親と施設職員等、個別に話す様子も見られ、貴重な時間を作ることができた。

参加数 里親21家庭25名、施設職員15カ所19名、大阪市こども相談センター1名

【週末里親制度説明会】

『週末里親ってなあに？』と題して説明会を開催した。今回は、週末里親制度の説明の後、大阪市港区にある児童養護施設入舟寮の松木里親支援専門相談員より児童養護施設について、また児童養護施設で暮らす子どもにとっての週末里親の意義について話をしていただいた。その後、現在週末里親として活動している、協会の山上より里子との関わりの体験談を話した。参加者から週末里親制度に関する質問も受け、それに対して協会職員、施設職員が答える時間を作った。松木相談員も山上もスライドを用いての話だったので、イメージも持ちやすく、参加者から有意義だったという感想が多く聞かれ、好評であった。参加者の中から登録に結びつく家庭が出てくることを期待している。個別相談ほど敷居を高く感じずに参加できるこのような形式での説明会を定期的におこなうことで、週末里親制度の周知、新規登録者の増加につなげられるのではないかと感じている。

日 時 2月20日（土） 10時～11時30分
 場 所 大阪市立社会福祉センター
 内 容 ①大阪市週末里親制度について
 ②児童養護施設の現状と週末里親の必要性について
 参加者 4組6名 講師（施設職員）1名

Ⅷ. 大阪市よりのその他の委託事業

【大阪市里親制度普及促進事業】

平成24年度より、同事業が公募型となり、毎年の応募、審査を経て、委託事業者として選定されていたが、今年度より、「愛の手運動」にまつわる部分の事業については、公募型ではなく、協会を指定事業者として委託できることとなった。事業には、愛の手運動による里親開拓、養親希望者への研修、委託里親家庭等への訪問指導、全国の児童相談所里親担当者連絡会の企画などが含まれる。

Ⅸ. 大阪府里親支援機関業務

平成20年10月に大阪府より里親支援機関としての業務委託を受けた。

業務内容は、里親制度の普及啓発、里親研修、里親委託推進のための相互交流、施設入所児童を対象とする週末里親事業の実施等である。

【里親制度普及促進事業】

〈里親希望者への研修〉

◆基礎研修（講義・演習、施設見学）

日 時	①H27.4.25 ②H27.7.28 ③H27.10.24 ④H27.10.27 ⑤H28.1.20 10:00～17:00
場 所	①⑤高鷲学園 ②大阪水上隣保館乳児院 ③遥学園・大阪水上隣保館乳児院 ④和泉乳児院
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「子どもの発達」 ころみかンセリングセンター 西部美志氏 ・講義「子どもの医療と保健」 高鷲学園 : 前迫奈津子氏 大阪水上隣保館乳児院 : 畑美江氏 和泉乳児院 : 森朋子氏 ・講義と施設説明 高鷲学園 : 施設長 瀬川佳成氏 里親支援専門相談員 若林康一氏 大阪水上隣保館乳児院 : 施設長 高山嘉史氏 里親支援専門相談員 木内さくら氏 和泉乳児院 : 施設長 栗延雅彦氏

	・施設見学	・グループ討議	
参加者	①はぐくみ3組6名 ②はぐくみ7組10名 ③はぐくみ9組15名 ④はぐくみ5組8名 ⑤はぐくみ5組8名	養子7組14名 養子8組16名 養子4組8名 養子1組2名 養子5組10名	ファミリーホーム1名 親族2組3名 親族1名 親族1名 ファミリーホーム7名

◆認定前研修Ⅰ・Ⅱ

日時	①H27.5.15/5.30 ②H27.8.29/9.12 ③H27.11.14/11.27 ④H28.2.21/2.27 13:00～17:00			
場所	大阪市立社会福祉センター、たかつガーデン（H28.2.21）			
内容	I・講義「里親養育の様々な課題」 家庭養護促進協会 岩崎 美枝子 ・演習「子どもを引き受けたら何が起こるか」 同上 II・講義「里親養育、最低基準」 家庭養護促進協会 ①③井手貴夜子 ②④藤目みのり ・講義「子どもの権利擁護」 ②③④弁護士 西村英一郎氏 ① 弁護士 浜田真樹氏 ・先輩里親体験談①大阪里親連合会 東大阪支部 辻晃氏 ② " 吹田支部 石木京子氏 中央支部 牧野博子氏 ③ " 池田支部 宇野田陽子氏 青木裕美氏 ④ " 中央支部 牧野博子氏 岸和田支部 田中富美氏			
参加者	①	②	③	④
I	はぐくみ1名 養子6組12名 ファミリーホーム1名	はぐくみ8組13名 養子8組12名 親族1組2名	はぐくみ11組18名 養子12組16名	はぐくみ8組12名 養子6組12名 ファミリーホーム6名
II	養子6組14名 ファミリーホーム1名	はぐくみ8組14名 養子7組14名 親族1組2名	はぐくみ12組16名 養子5組10名	はぐくみ11組16名 養子6組11名 ファミリーホーム6名

◆認定前研修（実習）

日時	H27.4～H28.3.31
場所	乳児院4か所 児童養護施設14か所
内容	施設実習
参加者	はぐくみ22組39名 養子23組46名

◆里親更新研修

日時	①H27.6.27 ②H27.12.12
場所	大阪市立社会福祉センター
内容	・講義「社会的養護の現状と里親委託推進のための取り組み」 大阪府中央子ども家庭センター 地域相談課長 太田真実氏 ・講義 「ほめることで変わる子育て方法」 情緒障害児短期治療施設「あゆみの丘」 児童指導員 松川和人氏 ・講義 「親子関係の落とし穴」 元 関西福祉科学大学社会福祉学部 教授 松宮満氏 ・グループ討議
参加者	①11名6組 ②5名3組

◆専門里親認定研修

日 時	H27. 7. 1～12. 31
場 所	愛育研究所、生駒学園
内 容	・通信教育 ・スクーリング（H27. 8. 28～30の3日間） 会場：愛育研究所 ・施設実習（H27. 12. 1～8の間の7日間） 実習先：生駒学園
参加者	1名

【里親委託推進・支援等事業】

(1)会議への参加

◆里親委託等推進委員会調整委員会

日時 H28. 2. 17 内容 平成27年度活動状況報告

◆里親委託等推進合同連絡会

日時 ①H27. 5. 22 ②H26. 10. 23

内容 ①〇大阪府からの報告

- ・里親委託等推進委員会について
- ・里親支援専門相談員の業務について
- ・平成26年新規里親登録・取り消し及びファミリーホーム開設状況について
- 〇はぐくみホームによる地域子育て支援システム構築事業について
- 〇週末里親事業について
- 〇第1回里親支援専門相談員ワーキングについて

②〇大阪府、各機関からの事務連絡

- 〇本会議前のディスカッション概要報告
- 〇はぐくみホームによる地域子育て支援システム構築事業の実践報告
- 〇ブロックからの活動報告

◆里親連合会支部長会議

日時 ①8/7 ②11/16 ③10/6 ④11/28 ⑤1/19

- 内容 ①②夏季宿泊研修について・普及啓発活動について
- ①表彰関係・読売育英奨学金について
 - ②③春季里親研修会について・認定前研修の講師について
 - ③全国里親会からの説明とお詫びについて

(2)相互交流事業

◆新規委託里親研修

日 時	H27. 9. 26 13:30～16:00
場 所	大阪市立社会福祉センター
内 容	・先輩里親の体験談 大阪里親連合会 富田林支部 佐々木省三氏 岸和田支部 水島貴子氏 ・グループ討議
参加者	6組11名（はぐくみ6名／養子5名） 専門相談員2名

◆課題別研修

①講義とワーク

日 時	H27. 10. 7 13:00～16:00
場 所	大阪市立社会福祉センター
内 容	「里親委託解除」～気持ちを整理する～ ・体験発表 大阪里親連合会 中央支部 山本綾子氏 富田林支部 佐々木圭子氏 ・講義とワーク 講師:こころみカウンセリングセンター所長 西部美志氏
参加者	10名9組 専門相談員2名

② 講義とワーク(大阪市と合同)

日 時	H27. 11. 25 10:00～12:30
場 所	大阪市立社会福祉センター
内 容	・ 講義 「思春期の性について」 講師：大阪大学大学院人間科学研究科 准教授 野坂祐子氏
参加者	大阪府19名（里親9名 週末里親7名 専門相談員3名） 大阪市34名（里親25名 FH2名 専門相談員7名）

③ 講義(大阪市と合同)

日 時	①H28. 3. 5
場 所	大阪市立社会福祉センター
内 容	講義 「中途養育の支援の基本と子どもの理解」 講師：NPO法人 児童虐待防止協会理事長 津崎哲郎氏
参加者	大阪府29名（里親22名 専門相談員7名） 大阪市20名（里親17名 専門相談員3名）

※H28. 1. 23に大阪府親族里親懇談会を予定していたが、参加者が2組3名、そのうち1組が途中参加だったため中止した。

(3) 里親会主催：親と子の夏季宿泊研修

日時 H27. 8. 22～23 場所 石川県 片山津温泉方面
内容 1日目 体験発表とグループ討議
2日目 小松航空プラザ見学、日本海さかな街
参加者 44名（子ども13名）

(4) 地域シンポジウム(相談会)

センター名	日 時	場所および内容	参加者数
池田	H27. 6. 21(日) 10:00～12:00	箕面文化・交流センター 里親の体験発表、施設職員の講演、個別相談会	27名 相談1組
東大阪	H27. 7. 4 (土) 13:30～16:00	八尾市文化会館 里親の体験談、里子からのメッセージ、個別相談会	61名 相談3組
中央	H27. 7. 22(水) 12:00～15:00	門真市役所 里親相談会	相談3組
岸和田	H27. 10. 18(日) 13:30～16:00	岸和田市立波切ホール 里親相談会	相談8組
中央	H27. 11. 1 (土) 8:00～	淀川市民マラソン 里親普及啓発	39名 ランナー22名 応援17名
池田	H28. 1. 31(日) 10:00～12:00	池田駅前南会館 里親の体験発表、個別相談会	34名 相談3組
吹田	H28. 2. 14(日) 13:30～16:00	千里ニュータウンプラザ 制度説明、週末里親体験談、はぐくみホーム体験談、養子里親座談会、個別相談会	39名 相談3組
岸和田	H28. 2. 15～19 10:00～16:00	泉大津市役所 相談会	相談5組
岸和田	H28. 3. 13(日) 10:30～16:00	ららぽーと和泉 相談会、パネル展示	子ども 202名

(5) 大阪府里親シンポジウム

日時 H27. 10. 3(土) 14:00～17:00 場所 豊中男女協働参画推進センター
内容 元里子体験談、里親体験談、個別相談会
参加者 120名

【週末里親事業】

毎年10組程度の週末里親子が成立しており、養育への移行も年1～2組ある。施設で生活する子どもにとって、貴重な家庭生活体験の場になっている。

①実質活動実績

29施設 児童97名 里親77組（うち登録里親9組）
活動回数 延べ764回 活動日数 延べ1,720日（※2泊3日事業の活動含む）

②2泊3日里親事業

長期休暇中家庭に帰れない子どもを対象に、待機となっている週末里親希望者の中から協力者を募り、2泊3日の家庭生活を体験することを目的として実施。

	協力家庭	候補児童	マッチング数	うち週末へ移行
夏季	25	36名(25組)	週末10組/はぐくみ2組	7組
冬季	—	12名(9組)	週末2組/はぐくみ2組	2組

③平成27年度新規週末里親子 14組19名 大阪市からのケース移管 2組2名

④大阪府週末里親懇談会

週末里親に集ってもらい、活動の様子や日頃感じている悩みについて、情報や意見を交換した。開催日 H27. 7. 18 参加者 週末里親 10組12名 施設職員 14名

⑤週末里親研修

週末里親活動希望者に対し、社会的養護を必要とする子どもを理解してもらい、子どもが生活している施設の実情を知ってもらうことが目的。

開催日	H27. 6. 13
場 所	子供の家
内 容	・講義「社会的養護が必要な子どもの理解」「週末里親と関わりのある子どもについて」 ・施設見学と子どもたちとのふれあい ・週末里親体験談
参加者	14組22名

施設で子どもたちがどのように生活しているのかがよくわかり、週末里親活動をする意義の深さを理解できたという声が多かった。

X I . 生活資金・奨学資金貸付制度

平成25年度に21歳男性（養子）が自立支援フリースクールへ通う学費1年分を、教育支援資金として316,800円貸し付けた。男性は派遣社員として就労し、27年度は63,360円の返済がなされ、返済残高は190,080円である。新たな貸し付けはなかった。

X II . その他の活動

◆新聞社等マスコミからの取材に対応した。

H27. 4. 8 中京テレビ安川氏

4. 10 映像制作所タイムカプセル藤葉氏

4. 14 朝日新聞東京本社ビニオン編集部太田記者、いとうカメラマン

7. 6 読売新聞社喜多記者

8. 31 ライターの坂上琴氏

12. 24 天王寺区役所の高戸氏、ライターの朝日氏他2名（天王寺区広報紙取材）

H28. 2. 17 共同通信社 宮城記者

3. 1 TV朝日山田プロデューサー、製作会社5年D組太田プロデューサー（TVドラマ製作の取材のため）

3. 14 中京テレビ安川氏

◆協会活動や里親制度等について知るために以下の人々の訪問があった。

4. 7 こども情報研究センター奥村氏と藤井氏（里親研修について）

4. 21 円ブリオ大阪生見氏

- 5. 7 社会福祉士菅氏（協会の活動について）
- 5. 9 NPO法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会石橋氏、長尾氏、（里親制度について）
- 5.12 奈良市役所子ども未来部子育て相談課米田氏、中南氏
- 5.22 同志社大学院生近藤さん
- 6.10 元愛の手記者、現龍谷大学社会学部准教授畑仲氏
- 6.15 第一工芸代表取締役綿谷氏、営業部次長大越氏（協会への支援活動についての相談）
- 6.22 大阪市里親会橋本副会長（週末里親制度についての相談）
- 7.15 京都文教大学3回生倉崎さん
- 10. 2 京都府立大学4回生小島さん（卒論の情報収集）
- 10.27 日本女子大学林先生（養子縁組斡旋にかかわる意見交換）
- 11. 6 NPO法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会長尾氏、藤井氏（協会の広報活動について）
- 11.12 大阪ソゴ社会福祉交流プログラム フラン・ネサンソリダー他5名
- 12.15 映画監督豪田トモ氏（新作制作にあたって）
- 12.18 愛知東邦大学伊藤先生（「家庭養護寮」について情報収集）
- 1.21 映画監督豪田トモ氏（新作制作にあたって）
- 1.28 大阪市天王寺区水谷区長
- 2. 5 日本財団高橋氏、三菱UFJリサーチ&コンサルティング家子氏（養親子に関する調査についての依頼、および協会の活動を知るため）

◆大阪市子ども相談センター主催の出前相談会に相談員として協力した。

- H27. 8. 7 あべのハルカス7階街ステーション（山上・中島）
- 9. 7 大念仏乳児院（田邊・和田）
- 10.24 イオン大阪ドームシティ（山上）
- 11. 1 A T Cホールオズ南館（和田）
- 12.13 あべのハルカス8階街ステーション（山上・和田）
- H.28.1.23 あさひあったかきち（中島）

◆以下の企業や団体が愛の手運動のためという趣旨でイベント等を企画し、その収益を活動資金等として寄贈いただいた。いずれの場合も、単にご寄付を受けたということだけではなく、愛の手運動のPR活動としての効果もあり、感謝している。

- *日本子ども支援協会より子ども衣類、玩具多数
- *グローバルアシスト神谷理事より玩具多数
- *一般社団法人 大阪府宅地建物取引業協会（100,300円）
- *もとたまりコーダー教室クリスマスチャリティーコンサート（16,600円）
- *毎日新聞大阪本社社会部第47回愛の手チャリティーオークション（1,566,916円）
- *大阪曾根崎ライオンズクラブ新年定例会に出席（100,000円）
- *一般社団法人 大阪府宅地建物取引業協会泉州支部（148,904円）
- *一般社団法人 大阪府宅地建物取引業協会チャリティーボウリング大会3月に開催
（受贈は4月 28年度として257,480円）
- *一般社団法人 大阪府宅地建物取引業協会北摂支部（受贈は4月 28年度として36,881円）

◆府子ども家庭センター里親担当者会議に出席し、大阪府子ども家庭センター、大阪市子ども相談センター、堺市子ども相談所との連絡調整に努めた。

◆今年度より大阪市里親認定前研修事業は他機関が受託したが、引き続き、「認定前研修Ⅰ」の講師は岩崎が引き受けている（年4回）。

◆日本財団主催養子縁組法に係る意見交換会で意見を述べた（岩崎）。

◆厚生労働科学研究「国内外における養子縁組の現状と子どものウェルビーイングを考慮したその実践手続きのあり方に関する研究会」に実践研究アドバイザーとして前年度より参加継続（岩崎）。

◆厚生労働科学研究「里親認定に係る研修に関する研究」に委員として参加（岩崎）。